

# 再び幼稚園の共同遊戯に就いて

和田 實

幼稚園の共同遊戯即ち所謂唱歌遊戯に就いて吾人は多少の意見を前號に掲載した所が或會員の所から左の手簡が来た。吾人の言論が少しでも地方に於ける會員諸君の御参考になつたと思へば甚だ満足であるが、夫れが爲めに一層の疑問を生ぜしめ往く所の方針に迷ふ様なことが出来たとすれば其責は誠に輕からぬことである。左の手簡をよこされた方は幸に吾人と略同意見の人であるから未だ是位の質間で疑問は解決されるけれど、或は是以上の疑問や異見があつて吾人の所見を疑がつて居られる方があるかも知れぬと思ふから今茲に多少反復する所があるのも厭はず今一度吾人の意見を吐露し様と思ふのである。寄せられた手紙と云ふのは左の通りです。氏名は都合があつて暫く藏して置きます。

先生の仰せられました如く幼児は飾つて眺めるものでなく生き

て居てしかも我儘者で始終何事をかして居る動物で妄りに規制すべきものでない。それを當市の幼稚園では全く反對に玩弄して外觀を美ならしめんが爲めに強いて規律を事としてゐるやうでして凡てありとあらゆる唱歌に悉く動作をつけて仲には全く大人の考へで幼児には一向にわけのわからぬ事をさせて居るやうな一般の風を見うけました。私はどうも感服致しませんでした爲め此の度の運動會にも少々注意致しましてやたらに動作をつけませず、唱歌遊戯中にも凧あげボートなどは自然活動にちかて平素幼児も大變よろこんで居ました爲め擲んでいたしました。それから塙の雀で庭園を隨意にばす事も致しましたら小山の中などに殊更いつて寝るものありまして大變子供も喜びました。凧もボートも一列なんかにならせないで勝手處で元氣にさせました。所が自分では他と比較批評も出来ませぬが或る人からはたしかに一進歩であるといはれました。先生私は先生の御話を見ましてまだく自分の致し方に缺點のあつた事を深くさとりました。來年までには大に研究いたしてこんどこそはと今から楽しんで居ます同時にあれやこれや考へます。と唱歌遊戯をさせます範圍が私は知れなくなつてしまひました。なんだか唱歌遊戯について考へがまとまらなくなりましたから御面倒作らこゝにつまらぬ事を御伺ひ申上ます。先生の仰せられました團體的共同遊戯の限度で御座います(窮風な範圍を脱し閉ぢられた遊嬉室から出て自由な多方面の發達を心掛くべきである)これによりますと御校幼稚園でのあの内遊の様なものには必要がないとのおげし召でせうか内遊ではいつも唱歌遊戯を致

ますがあんな事は全く内遊として殊更致す必要はないもので御座いませうか只今までは何れの幼稚園でもしてゐない處はありませぬがこれはほんにとどうも自分で限度がわからぬので御座います。私の處では只今まではかう致して居りますが如何で御座いませうどうぞ、御遠慮なく鋭く批評を願います。遊嬉室では朝の會集の時おはようの挨拶後の二三の唱歌遊嬉を致しませう其の外には内遊として殊更致しませぬ一週二三回時を見てウアイオリンで庭園で各組連合で唱歌をしたり陣屋取り旗送り兎事バスケットボール猫と鼠探り物などして競争遊嬉のやさしいものなど個人競争でなくさせます其の間に少しづつ唱歌遊嬉を入れて楽器にあはせて又次にうつるやうにいたして居ますけれども時には列をさせます事もありますが多くは其のまゝ此處で例へば桃だらうさんなんかをうたはせておますが子供は割合によろこんで遊んでくれます。先生に見ていたゞきまして御高評を願つたらといつも、思ひますのです。團體遊嬉はこの外に宜しい方法が御座いませうかこれ位は幼稚園の團體共同遊嬉の範圍に入れてよろしいでせうか。先生御話が少し横に入りましたが、遊嬉室でさせなくとも兎に角室の内で唱歌などさせます時に物によりましては、たゞ歌のみでは興味が少く御座いますし又意味の了解し難い處など御座います爲めに、幼児自身でいろ／＼動作をこしらへましたりこちらからも適當の事をさせて居ますが、これで出来だしますと遊嬉室の中でなくとも同じになつてまゐりますと存じますが、この動作といふものにはどんな考をもつて居ましたら宜しいでせうか、たゞ唱歌遊嬉

の外延を縮少す」と申しますのは、外見をくよする爲めに遊嬉室で美麗に並んだ一つの規律のもとにやるのをとめ、唱歌などの際動作をわかり易く、幼児の自然に發する動作につけて共にたのしく遊びつたう位で、殊更に内遊として正しく強い列など作らせておとなしくさせやうとするのを止める位で宜しいでせうか。當園前主任の人の話では何の歌にも悉く動作がついて居まして始めから終りまでみんな動作ばかりでして、動作のつけ方がないといふ處などへは拍手又は歩行を入れて少しもじつとして歌をうたはせるといふ事はなかつたそうです。私はこれにはどうも賛成致して居ませんが如何で御座いませう。外延縮少の範圍を考へますともう頭がむちやくちやになつてしまつて困ります私はたしかに唱歌遊嬉には賛成致しませんが唱歌遊嬉について人にきかれました時にしかとした考へが御座いませぬではと存じまゐつてくだらぬ事を長々と書き綴りまして先生の御目をわづらはしました。近ければ先生の御話も伺ひますと思ひますとなんだかなさげなくなりました。先生私の遊も何の氣もつかず只今までうか／＼と致しておました。どうぞ御暇の御あり遊ばしました節何とぞ先生の御話を手紙でもつて何はせていたゞきたう御座います。それから遊嬉具のよろしい物が御座いましたらどうを價と名と賣店とを御教へ下さいませ。此の雜誌で一才拜見致しましたが明治獨樂は如何で御座いませう。實物を見ませぬから判断がたませぬので困つてゐます。それから先生プランコか何かあんな体力的な遊嬉に用ゐます遊嬉具で備付によるしいものは何か御座いませうか。腰掛プランコは

いかいで御座いませう。當市はつまりませぬから玩具屋にでもこれといふ玩具は一つも御座いせん。何か御氣おつきの物がございましてら賣店をどうぞ御知らせを願上ます。誠にそれ

入ました御願で御座います。惟ふに會員諸君の中には是と同様の感を抱かる、方々が他にも決してないことはあるまいと思ふ。打ち見る所、疑問の要點は幼児教育上に於ける所謂共同遊戯の價値と其位置、及び唱歌に伴ふ所作の必要なる限度如何と云ふ所にあると思ふ。そこで先づ第一に共同遊戯に就いて述べて見やう。元來共同と云ふ言葉は單獨と云ふ言葉に對するもので幼児遊戯の形式に屬する區別であつて遊戯を分類する上の言葉としては適當なものではない。殊に從來幼稚園に於て用ゐて來た所の團隊的唱歌的、律動的、遊戯式を以て共同遊戯と稱へて居るのは極めて不適當なる言辭であると云はねばならぬ。何故と云ふに共同と云ふことは何も唱歌遊戯に限つたことはなく隨意に砂場で遊んで居るときでも鬼ごつこや驅けつこをして居る時でも自然現はれ來ること寧ろ共同と云ふことは唱歌遊戯以外の方に却つて多量に見出される位であるか

らである。

然らば一体此唱歌遊戯は如何なる必要があつて行はれる様になつたのであるかと云ふに一方は無論幼児の共同的遊戯動向に則つたには違ひないが一方は確かに多勢の幼児を管理し易く遊ばせ様と云ふ教師自身の都合から來て居るのである。若し是れが教師や管理者の都合など、云ふことが全く無くて全然幼児の自然的要求にのみ則つて工夫されたものならば、一團隊の人数は各遊戯に因つて自づから差違を呈するが當然であり、且つ一組の人数は妄りに數十の多數に昇る可きものではない。試みに幼児の自然に行つて居る共同作業や、鬼事や、子を取ろくなどを見ても判る話してである。然るに幼稚園の遊戯と云ふものは其人數が既に幼児の自然に要求するものよりは遙かに多數である。そして遊戯の結果に於て各幼児の個人的に得る所の遊戯量と云ふものは彼自然に行はるゝ共同遊戯に比するときは遙かに劣位にある。是等の諸點を總合して見れば現在の幼稚園に行うて居る共同遊戯は幼児本來の要求に應じたものと云ふよりは寧ろ一

方に幼児の要求を顧みると共に他方には看護者の  
 便宜の爲めに工夫せられたものであると云つて決  
 して不當でない。殊にフレイベルが母の遊戯を工  
 夫した其もとは雨降りの際に於ける滑開の遊戯よ  
 り始まつたと云ふに至つては吾人の此見解は決し  
 て大なる過はあるまいと思ふ。斯くの如く幼稚園  
 の所謂共同遊戯は一方教師の都合上工夫されたも  
 のとすれば其が或點に於て多少なりとも幼児を無  
 理押し付けをして居る所があるのは止むを得ぬ次  
 第である。従つて幼児の之に對する興味と云ふも  
 のを氣を付けて見て居ると他の隨意的共同遊戯即  
 ち眞の自然的要求に則つて現はれたる共同遊戯に  
 比して遙かに劣つて居るのは當然のこと、云はね  
 ばならぬ。併し又一方には元來幼児の共同性に基  
 いたものであるから多數の中には随分幼児の興味  
 を發揚し至幼児をして充分に活動せしむるものが  
 ないのではない故に吾人は或一部の人の云ふ様に  
 是等の遊戯を全然幼児教育より排斥し様とするも  
 のではないが然りとて從來の如く之を以て幼稚園  
 の特技であるかの如く考へて益盛んに行らせよう

と云ふものではない。然らば吾人の必要なりとす  
 る限度は果して如何なる所に存するかと云ふに吾  
 人は其標準を一に幼児彼自身の主觀狀態に求め様  
 とするものである。即ち幼児が興味を以て之を迎  
 へ興味を以て之を行ひつゝある間は此種の遊戯が  
 幼児教育上に相當の貢獻を爲しつゝあるものと見  
 て差支な。併し之に反して幼児の興味が此種の  
 遊戯を歓迎せず又遊戯中に注意を他に轉ずること  
 多く或は遊戯に關係なき自由活動や徒戯や滑稽を  
 演ずる様になつた時は最早此種の遊戯を課する必  
 要のなくなつた時で遊戯の種類を變化す可き秋で  
 あると思ふのである。然るに多くの幼稚園では幼  
 兒の興味があらうかなからうか頼と顧慮する所な  
 く欠伸して居るものは抑へ付け、徒戯して居るも  
 のは叱り付けて無理やり之を強制して居る。吾  
 人は何等の必要あつて然るかを知らることが出來な  
 いのである。元來幼児の遊戯と云ふものは其性質  
 としで熱心と眞面目との充溢したるものである。  
 従つて幼児が其己れの歓迎する遊戯に當つて熱心  
 と眞面目とを發輝するは本來の性質である。故に

幼児が熱心に遊戯せず眞面目に遊ばないと云ふこと  
 とがあつたならば其遊戯は既に幼児の歓迎して居  
 るものでないといふことは判り切つたことである  
 而して幼児に其歓迎せざる遊戯を強行せしめて幼  
 兒教育の目的を達せんことは恰も木に依つて魚を  
 求むるの類であるといふはねばならぬ。人或は一教  
 育は具案的である。豫案は多少強ゆる所あつても  
 差支ない。且又子供と云ふものは常に少しづつは  
 嫌がる仕事に従はせて置くことが必要である」と云  
 ふを直に採つて以て我幼児教育に行はんとする  
 人があるけれど是は一を知つて二を知らぬ考と云  
 ふ可きである。吾人も日々僅かつは兒童をして  
 努力的勤勞に従事せしむることの教育的方法であ  
 ることを知つて居る。併し是と同時に其勤勞の内  
 容たるや必ず多大の實質的價值を持つて居るもの  
 であることに注意しなければならぬ。是を惟考へ  
 ないで以て何等の實質的價值をも有せざる遊戯を  
 彼等幼児に強行して而して教育的勤勞に従事せし  
 めたなどと思ふて居るのは飛んでもない間違であ  
 る斯る人は宜しく願みて古人は何故に遊戯を教育

事項とせず却つて教育上有害なるものと見たかと  
 云ふことに注意す可きである。  
 之を要するに幼稚園の所謂共同遊戯は固より純然  
 たる遊戯であつて  
 同一視す可きものであるが、之を自發的に眞面目  
 に行ふと云ふ點に於て幼兒には大なる教育的價值  
 ありと云ふ丈のことで決して好まぬものに迄も強  
 行せしめても行らせなければならぬと云ふ程のも  
 のではないのである、換言すれば幼稚園の共同遊  
 戯は之を幼兒が熱心に眞面目に歓迎する範圍内に  
 於てのみ有効なものであつて決して二六時中常に  
 行はしめて大なる教育的價值ありと云ふ程のもの  
 ではないのである。  
 以上述ぶる所に因つて所謂唱歌遊戯と云ふものが  
 成程度に限らる可きものであると云ふことは判明  
 したらうと思ふ。然らば將來の幼稚園に於ては果  
 して如何程の分量に於て此種の遊戯を課すること  
 が幼兒の要求に相當す可きかと云ふに吾人は多く  
 ともし週平均三回位にて澤山だと思ふ。勿論是は  
 大體の議論で幼兒の興味の發作する時期に因りて

其歡迎せらるゝ程度に因りて或時は數週日の間毎日之を行ふこともあらうし或時は數週に亘りて一回も行はざることがあつても然る可きであると思ふが先づ平均したならば一週の中に三回位の割合で他の遊戯の中に他の共同遊戯と共に介在す可きものであらうと思ふ。此見地から見れば今日の幼稚園が如何に此遊戯を偏重して居るか知れる。又先きに上げたる手紙の主人公が毎朝一度づゝ行つて居ると云ふのも寧ろ多い位であると云ふ可きである。併し吾人は此方の從事せらるゝ幼稚園の設備を知らないから、無暗に之を批評するとは出来ない。何故と云ふに先きにも述べた通り元來幼稚園の共同遊戯と云ふものは一方に教師の都合から割り出されたものであるから幼稚園の設備が不完全で共同遊戯以外に有益なる他の遊戯をするこの出来ない所では自然此遊戯に多く依頼する様になるのは誠に止むを得ざることであるからである。即ち玩具類や恩物類の設備が充分でなく、遊園や花壇や砂場やなどの遊戯具が完全して居ない所では止むを得ず是等の遊戯に因つて御茶を濁し

て置く必要があるからである。將來完全なる幼児教育を施さうとする完全にして高等なる幼稚園では決して是等の遊戯に多く依頼す可きものではない。畢竟是等の共同遊戯は慈善的に成立せる托兒所的幼稚園に於て比較的少數の看護者を以て多數の幼児を取り扱ひ完全なる教育迄行かずとも有害なる影響なからしめんことを主とする消極的保育主義を採る所に於て盛んに工夫す可きものであつて人手と費用とを吝せぬ所では然のみ重んずる必要のないものと云はねばならぬ即ち幼児の眞面目に歡迎する範圍を限度として課する丈で決して差支ないものである。次に是等の共同遊戯を行ひ居る場所に就いても大に不服を云はなければならぬ。從來の所では何にせよ歌曲に合はすと云ふ必要ある爲めに自然樂器の傍でなければ活動が出来ず従つて如何に天氣が能くとも遊園が美しくとも矢張り陰氣な塵芥多き屋内を選ぶ様になつて子供は自然の恩恵に浴するところが少ない様になつて居つた。單に此點からのみ云ふても將來の幼稚園は大に改良を要するもので

ある此點に關しては先きの手紙の主人公は至極適當な處置をして居られると云はねばならぬ。次に唱歌に伴ふ幼兒の手振身振の事に就いて某氏の感ぜらるゝ所は吾人も至極同感である。唱歌は唱歌であつて決して芝居の臺辭や義大夫の假聲ではない。何も一々之を動作に表はさねばならぬと云ふものではないのである。此點に關しては某氏の御意見は悉く吾人の賛成する所であるから此上蛇言を述ぶる必要はないであらう。最後に玩具に關する質問があるが御尤なことである。女子高等師範附屬では近々腰掛付のブランコが設けられるさうである。此他に釣る下がる爲めの金棒や低い並行棒、固定圓木なども至極よからうと思ふ。或醫者に云はせると金棒などは危険だと云ふけれど是は造り方次第で決して危険はないもので畢竟責任を恐るゝ醫者の憶病に過ぎぬと思ふ。此他玩具として毬、フットボール、御手王、細引、の様なものは常に充分に備へ付けられんことを望むのである。それから御尋ねの明治獨樂は色の配合を教ゆる爲めのものとしては面白きもので決して悪い

ものではないか。是は觀察的經驗的玩具であつて練習的技能的玩具ではないから前に上げた毬やフットボールと一所に考へてはいけぬ。以上述ぶる所に因つて幼稚園に於ける所謂唱歌遊戯に就いて吾人の思ふ所は略々盡くした様に思ふが多忙の際倉卒に筆を走らせたので説明の足らぬ所や條理の立たぬ所などが嘸かしと存する。希くは賢明なる會員諸君の御批評を切に仰ぐのである

玩具の話

(今泉雄作氏)

▲園碁亂碁碁石遊び) 双六と同様に古いのが碁です、正倉院にも御物の碁盤がある、是も元は支那から来た、遣方は御承知の通り種々あるが藤原時代に亂碁といふのがある、其方法は今は判然しませんが本碁の方法を外して打つたのだといふ説が穩當でせう、此説から推すと目五目並べの如きが其亂碁の内に入るかも知れませんが、其後四ツ目殺しとか三ツ星とか追々工夫された、此外拾物といふ碁石遊びがある、碁石を種々に並べて一ツ所を二度通らぬやうに拾つて行くと云ふやうな遊びで矢張貞享頃(二百三十年前)から物に見えて居る名目です  
▲十六むさし(八さすがり六さすがり) 碁から變化したのが十六むさしで和名抄にある八さすがりと云ふのが元であつたらしい即ち子が八つあつて親の迷道を塞ぐ、今のやうに雪隠詰の場所はない又親が子を喰ふ事はない又六さすがりと云ふのもあつたが方法は判らん、サスガリと云ふ事は近い頃まで埼玉地方に残つて十六むさしの事を十六さすがりと云ふた